香取地区教育委員会連絡協議会長賞

僕たちの生活と税金

神崎町立神崎中学校三年　神崎　敦司

僕は中学校の陸上部で、棒高跳びをやっています。部活動の仲間と一緒に練習に励み、努力を重ねて、今年は関東大会に出場することができました。

そんな中、学校で税金について学んだ時に、僕が汗を流し、記録に挑んできた郡市陸上大会の陸上競技場や県の陸上競技場、関東大会会場の茨城県の陸上競技場などの施設づくりに税金が役立っていることを知りました。普段、税金の恩恵についてあまり考えていなかったけれど、僕たちの暮らしは税金と大きく関わっているということを実感しました。

僕は、毎朝必ず朝食を食べます。食事は部活動を頑張る僕たち中学生にとても大切なことです。僕の住んでいる町は、小中学生の給食費が税金でまかなわれているため、給食費を払うことなく、給食を食べることができます。僕たちの口に入る安全な食品を作るための農業・漁業の支援にも、税金は重要です。僕が登下校する通学路の整備や信号機などにも、税金が使われています。そのおかげで僕は、安全に登下校できています。公立学校など、教育施設の建設や、机、椅子、教科書にも税金は使われています。また、僕が部活動で使用している棒高跳びのポールやマットも税金で買っていただいたものです。陸上大会に出場する時、大会会場まで行くのによく使用させてもらった町バスも、税金でまかなわれています。休日に使用する図書館や公民館などの公共施設の整備にも税金が使われています。そして僕が就寝中にも、日々の安全を守る警察や消防は動いていて、それも税金で成り立っています。僕たちは毎日、こんなにも税金と関わっていたのです。

「税金を払うのはいやだな」とか、「大変そうだな」と思っていたこともありましたが、税金について学んだことで考えが変わりました。税を納めることは大切なことであり、そのおかげで僕たちが勉強する上で必要不可欠なものが無償で提供されたり、生活の安全が守られたりしていることがわかりました。

僕が大人になったら、今まで僕たちがしてもらっていたように、しっかりと税を納め、未来の子どもたちの豊かな暮らしを支えていきたいと思います。僕たちの家計や企業が納めた税金は、国や地方団体に歳入として預けられ、国や地方団体の議会での予算決定を経て、公共事業や公共サービスとして、僕たちのために役立てられます。税金は、社会共通の費用をまかなうために、みんなで出し合ういわば会費のようなものなのです。僕たちは、十八歳になると大人の仲間入りをして、更に選挙権をもつ有権者となります。税の公平な負担方法とその使い道について、僕たち一人一人がもっと考えていく必要があります。豊かで安心できる暮らしのために、僕たち自身ができることを、よく考えていきたいと思います。未来の日本を創り、支えていくのは僕たちなのですから。